

## 人類働態学会「くらしの中の共生」第14回シンポジウム 人工知能社会における人類働態

昨年度の人類働態学会共生シンポジウムでは、高度に発達した人工知能を今後の人類の豊かな生活に役立てることを前提とした今後の課題について、3名の専門家からご講演をいただき、闊達な意見交換が行われました。

生理学的“系”の多くが様々な電子機器によって代替されてきている現在、さらに運動系や感覚系といった動物性機能についても機能補佐をする様々な電子機器が開発され、私たちの身近な生活の中に次々と取り入れられてきています。

古くは、石器や火の使用による調理など、消化系や免疫系あるいは代謝系に関わる道具や技術による働態変化、すなわち生体機能の退化および補償機能の発達を含む生活の変化を人類は経験してきました。現在では判断系や意思決定系あるいは認知系を代替することが可能な人工知能が登場し、生活の総体としての人類働態として、どのような方向に進化してゆくのかを検討する段階にきています。

今年度の共生シンポジウムではこれまでの人類の進化を踏まえて、今後の人工知能社会における人類の働態について考察してゆきます。

大会期日：2017年11月12日（日）13:30～15:30

開催場所：電気通信大学（東京都調布市調布ヶ丘1-5-1）

<http://www.uec.ac.jp/about/profile/access/>

参加費：無料（シンポジウム一般公開）

第1部 新技術の登場と人類の適応 司会：加藤麻樹（早稲田大学）

1) ご講演「人類進化の観点から見た、利便性の高い道具の使用から来る生体機能の退化および補償機能の発達について」

講師：真家 和生氏（人類働態学会理事, 元大妻女子大学）

2) ご講演「言語処理技術の発展と社会に与える影響について」

講師：菊池 英明氏（早稲田大学）

第2部 シンポジウム・人工知能社会における人類働態

司会：高橋雄三（広島市立大学）

### 講演者プロフィール

#### 真家和生（まいえかずお）氏

1974年東京大学理学部生物学科人類学課程卒業，同大学院人類学専攻博士課程後，京都大学霊長類研究所を経て大妻女子大学に教授として勤務。専門は自然人類学・人類働態学・生理学・博物館学，現人類働態学会理事。

#### 菊池 英明（きくちひであき）氏

1991年早稲田大学理工学部電気工学科卒業，1993年早稲田大学理工学研究科修士課程電気工学専攻修了，同年（株）日立製作所中央研究所入社，1997年早稲田大学理工学研究科博士後期課程情報科学専攻入学，1998年早稲田大学理工総合研究センター助手，2002年博士（情報科学）（早稲田大学）取得，2002年早稲田大学人間科学部講師，助教授を経て2012年より早稲田大学人間科学学術院教授（現職），2016年国立国語研究所客員教授，現在に至る。